

和歌山県内経済情勢報告

(令和5年4月判断)

1. 総論

【総括判断】「緩やかに持ち直している」(判断を据え置き)

項目	前回(5年1月判断)	今回(5年4月判断)	前回比較
総括判断	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→

(注) 令和5年4月判断は、前回5年1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、持ち直しているほか、雇用情勢は、持ち直しつつあるなど、全体としては、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回(5年1月判断)	今回(5年4月判断)	前回比較
個人消費	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
生産活動	持ち直している	持ち直している	→
雇用情勢	持ち直しつつある	持ち直しつつある	→
設備投資	4年度は前年度を上回る見込み	4年度は前年度を下回る見込み	↔
企業収益	4年度は増益見込み	4年度は増益見込み	→

【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外経済の下振れが景気の下押しリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ **個人消費** 「緩やかに持ち直している」

百貨店・スーパー販売は、外出機会の増加に伴い、衣料品や身の回り品が好調なことや、飲食料品などの値上げの影響もあり、売上が増加している。

コンビニエンスストア販売は、人流の増加に伴い、来店客数が増加していることなどから、売上が増加している。

ドラッグストア販売は、外出機会の増加により化粧品が好調であることなどから、売上は堅調に推移している。

家電大型専門店販売は、新生活需要はみられるものの、テレビなどが低調なことから、売上が減少している。

乗用車の新車登録届出台数は、普通車・小型車、軽自動車ともに前年を上回っている。

観光動向は、県内主要観光地において、観光需要喚起策などの影響で、観光客数は堅調に推移している。

(主なヒアリング結果)

- 1月、2月に実施した催事の影響で菓子等の食料品が好調であったのに加え、外出機会の増加、各種行事（卒業式や入学式）の開催により、衣料品、身の回り品が好調であったことから、客数、売上ともに増加している。（百貨店・スーパー）
- 客数及び買上点数は減少しているものの、飲食料品等の値上げにより客単価が上昇していることから、売上は微増。物価上昇による節約志向の高まりを受け、低価格のプライベートブランド商品が売れている。（百貨店・スーパー）
- 全国旅行支援や行楽需要の高まりから、人流が増加し、来店客数が伸びており、売上は前年を上回っている。（コンビニエンスストア）
- 食料品の売上が堅調なほか、外出機会の増加によりメイク関連の化粧品が好調であることから、売上は前年を上回っている。（ドラッグストア）
- 新生活需要により、一人暮らし向けの小型の洗濯機や冷蔵庫は売れているものの、テレビ離れの影響からテレビは低調となっており、売上は前年を下回っている。（家電大型専門店）
- 納車台数について、平時に戻りつつあるものの、3月まで主力車種の受注が止まっていたことから、受注数は前年を下回っている。（自動車販売店）
- 感染症の収束や観光需要喚起策（全国旅行支援）の影響により、前期に引き続き盛況な状態が続いているものの、コロナ前の水準にまでは回復していない。外国人観光客については、10月の入国規制緩和以降、少しずつ増加している。（観光関係団体）
- 感染症の収束や気温の上昇に伴い、人出が増加していることから来店客数、売上ともに前年を上回っている。（飲食店）

■ **生産活動** 「持ち直している」

鉱工業生産指数でみると、「鉄鋼業」などは低下しているものの、「生産用機械」や「化学工業」などは上昇している。

企業からは、部品供給制約の緩和により増産しているとの声が聞かれており、生産活動は、持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 生産量は、海外地域での需要の高まりと部材調達遅れの解消したことで増産状況にあり、前期比で大幅に増加している。（生産用機械）
- 部品供給不足が解消し、発注元は増産しているものの、当期は在庫を捌いていたことから、当社への受注は増加せず、概ね横ばい。足下、在庫が捌かれているため、翌期以降は、受注が増加する見込み。（はん用機械）
- 製品の性能向上や、ニーズに合った製品の開発等により、衣料用洗剤の需要が引き続き堅調。（化学）
- 取引先の自動車メーカーの生産回復の動きが鈍く、関連製品の需要は依然として低調。一方、エネルギー関連製品については、米国、中東を中心に需要が堅調である。（鉄鋼）
- 主力である自動車用部品について、半導体不足の影響は残るものの、メーカー発注内示の下振れが少しずつ落ち着いてきており、前期と比べて、生産量は若干増加している。（輸送用機械）

■ 雇用情勢 「持ち直しつつある」

新規求人数（5年2月）は、前月と比べ減少しているものの、有効求人倍率は、本年1月以降2か月連続で上昇しており、雇用情勢は、持ち直しつつある。

（主なヒアリング結果）

- 「宿泊業・飲食サービス業」において、外出機会の増加などによる需要増に伴い、飲食店からの求人が多くみられたところ。求人は出しているものの、応募がないため人手不足は解消できていないという声が聞かれており、まだまだ厳しい状況は続いている。（公的機関）
- 新卒採用競争が激化しており、特にデジタル人材など技術系人材の争奪戦が激しい。新卒人材を確保すべく、初任給の引き上げを行うこととしている。（生産用機械）
- 全体的に人手不足感があるところ、特に営業や海外部門の人員が足りていないが、これらの部門で活躍できる人材は県外に出て行ってしまふことが多く、採用が難しい。（その他製造）
- 営業、事務、整備士等、全体的に人手は不足しているが、特に整備士が不足している。中途でも採用しているが、離職する職員も一定数おり、採用しても充足しない。（自動車販売店）
- 学生アルバイトが入れ替わる時期であることから、現状は非常にタイトな状況。一部店舗を閉店し、余った人員を他店舗に振り分ける予定。（飲食店）

■ 設備投資 「4年度は前年度を下回る見込み」

法人企業景気予測調査（令和5年1～3月期調査）でみると、4年度の設備投資は、全産業で前年度を下回る見込みとなっている。産業別では、製造業、非製造業ともに前年度を下回る見込みとなっている。

■ 企業収益 「4年度は増益見込み」

法人企業景気予測調査（令和5年1～3月期調査）でみると、4年度の経常利益は、全産業で増益見込みとなっている。産業別では、非製造業で減益見込みとなっているものの、製造業で増益見込みとなっている。

【その他の項目】

■ 住宅建設 「前年を下回る」

新設住宅着工戸数（3ヶ月後方移動平均値）でみると、前年を下回っている。内訳でみると、貸家で前年を上回っているものの、持家、分譲で前年を下回っている。

■ 公共事業 「前年を下回る」

前払金保証請負金額（年度累計額）でみると、前年を下回っている。内訳でみると、国、独立行政法人等で前年を上回っているものの、県、市町村で前年を下回っている。

■ 企業倒産 「倒産件数、負債総額ともに前年を上回っている」

倒産件数、負債総額ともに前年を上回っている。

■ 景況判断 「「下降」超となっている」

法人企業景気予測調査（令和5年1～3月期調査）の景況判断BSIでみると、全産業で「下降」超となっている。

産業別では、製造業、非製造業ともに「下降」超となっている。

規模別では、大企業で「上昇」超となっているものの、中堅企業、中小企業で「下降」超となっている。